

# 漁況海況予報事業（情報交換推進事業）

鹿 熊 信一郎

## 1. 目的および内容

沿岸・沖合漁業に関する漁海況調査、研究および資源調査の結果に基づいて、海況の変動や漁場の形成される位置・魚群の量などの予報分を作成する。また、漁況・海況情報を収集整理し漁業者に通報することにより、漁業資源の合理的利用や操業の効率化を図り、漁業経営の安定に資する。さらに、海況や資源の状態、回遊状況などあらゆる情報から漁況あるいは資源の変動を予測する手法を開発改良し、予報の精度を高める。

## 2. 材料及び方法

### (1) 漁海況情報の作成

各種海況情報および漁況情報を1ヶ月に1回整理した「漁海況情報」<sup>1)</sup>を作成し水産関係者に広報した。内容は以下のとおりである。

海況：琉球新報天気欄から風向風速頻度、定期船による流況観測結果、漁業情報サービスセンターの表層水温図、長崎海洋気象台の表層水温偏差

漁況：沖縄島南4漁協および伊良部漁協のパヤオ（浮魚礁）漁業による魚種別漁獲量、その年次推移、沖縄本島地域6漁協の定置網魚種別漁獲量、ソデイカ漁業の月別漁獲量および外套長推移

### (2) 海流速報<sup>2)</sup>の作成

“飛龍3”および“だいとう”に設置した流向流速計の観測結果を図化し、毎月1回関係漁協等へ送付した。

### (3) その他の情報

パヤオ漁業やソデイカ漁業の漁獲量の推移等について整理し、「パヤオ情報」<sup>3)</sup>、「ソデイカ情報」<sup>4)</sup>として水産関係者に広報した。また、本部漁協のカツオ竿釣り漁業について銘柄別漁獲量等を送付してもらい、これを整理した。

## 3. 結果及び考察

### (1) パヤオ漁業

1995年のパヤオ漁は好漁であった。沖縄島南のパヤオに出漁する糸満、港川、知念、沖縄市の4漁協では、主な対象種であるキハダ（10kg以上）が1994年には112tの漁獲量だったのに対し、1995年は3倍以上の352tとなった。シビ（10kg以下のキハダ）、シイラの漁獲量も増加した。

沖縄島南パヤオ漁獲漁（t）

	1994年	1995年
キハダ	112	352
シビ	196	292
シイラ	59	101

図3にキハダ、シビ、シイラの月別漁獲量の推移を示した。

### (2) ソデイカ

1994年11月～1995年6月の全県 ソデイカの漁獲量は、前期に比べて大きく増加した。原因は、漁場の沖合化と延縄等の漁獲努力量の増加によるものと思う。1995年11月～1996年6月は大きく減少した。原因は環境変化と漁獲過剰の両方が影響していると思う（図3、図4）。

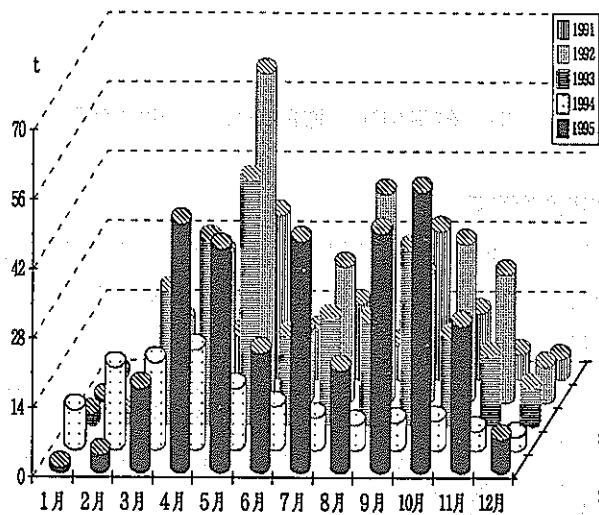
### (3) カツオ竿釣り

本部漁協のカツオ竿釣りは、近年低調で推移しているが、今期は漁獲量、CPUEともに比較的高い水準であった（図6）。

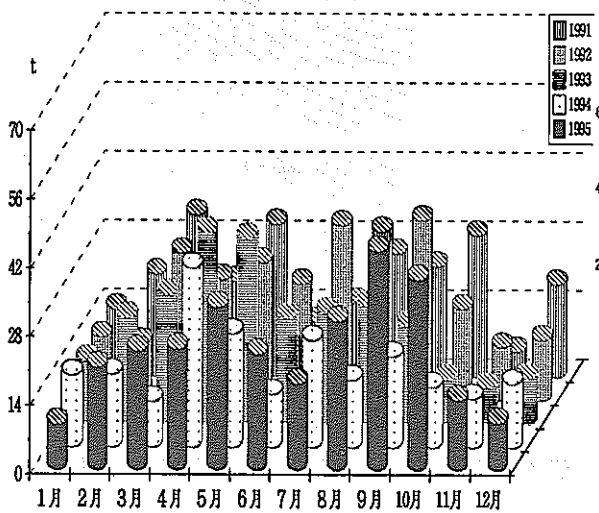
## 文 献

- 1) 沖縄県水産試験場（1995-1996）：漁海況情報、第269-280号
- 2) 沖縄県水産試験場（1995-1996）：海流速報、第4-12号
- 3) 沖縄県水産試験場（1995）：パヤオ情報、第3号
- 4) 沖縄県水産試験場（1995）：ソデイカ情報、第1号

月別キハダ生産量の推移



月別シビ生産量の推移



月別シイラ生産量の推移

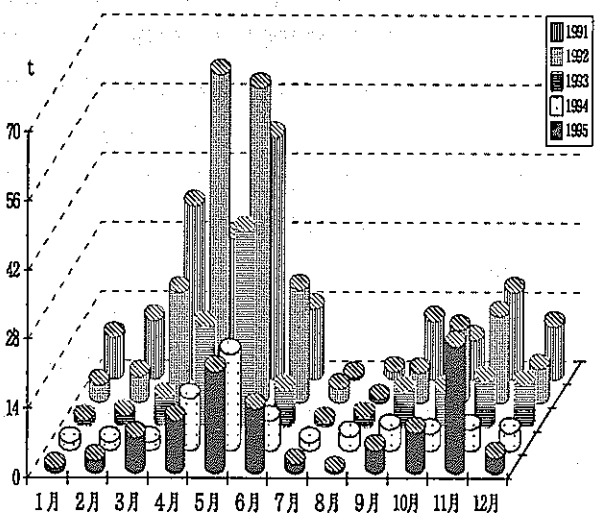


図1 キハダ・シビ・シイラ漁獲量の推移

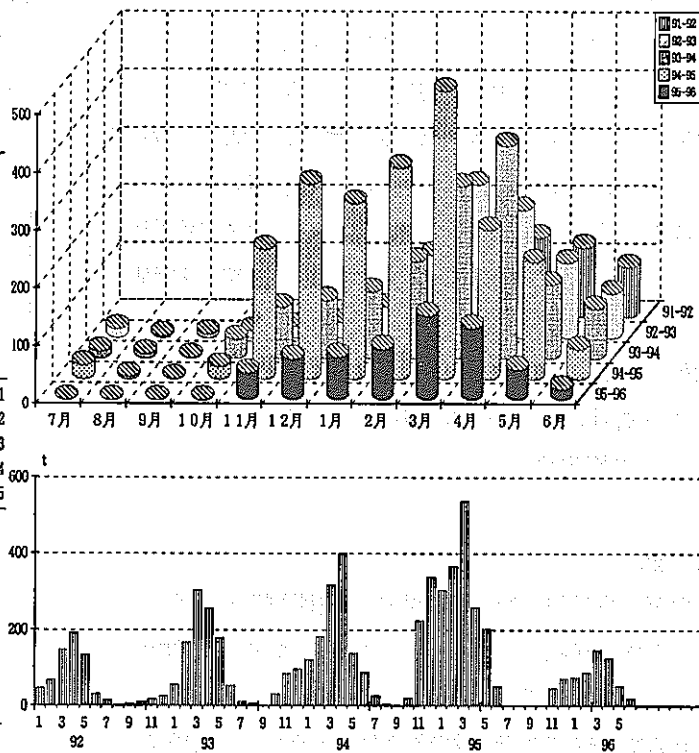


図2 ソデイカ漁獲量の推移

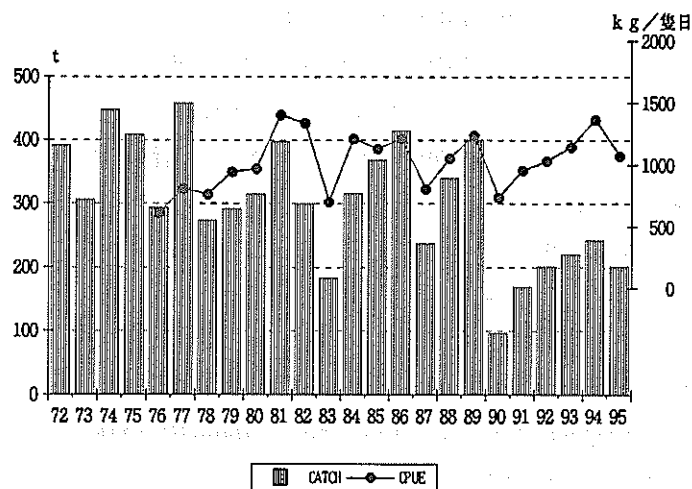


図3 本部漁協カツオ漁獲量・CPUEの推移